

アグリビジネス研究会 事業報告

研究会主査 大 西 敏 夫
【和歌山大学経済学部教授】

2014年の農林水産物・食品の輸出額が6,117億円となり、1950年代以来初めて6,000億円を突破するなど、輸出拡大に向けた動きが活発化している。政府は輸出倍増のような政策をこれまでも推し進めてきた。輸出の場合、品質面や価格競争力の強化が必須となる。つまり、単純に言えば農産物のコスト・価格を下げ、競争力を高めなければならないということである。

和歌山県においては、これまでも行政主導で柿や桃といった生果・加工品の輸出戦略について検討する委員会を立ち上げ、これらの課題に向き合ってきた。また、和歌山県の農業構造の特質、とりわけ果樹・野菜・花き等商品生産的性格が強くマーケティングが重要となる分野の比重が大きい。これらの分野に対し、これからも輸出戦略を検討する余地は大いにある。

そこで、本研究会では、和歌山県における農林水産物の輸出の現状を把握し、輸出拡大の発展に向けた可能性について研究を進めてきた。

研究会の構成

研究会の構成メンバー、オブザーバー（ゲストを含む）、事務局は、以下のとおりである。

①メンバー（敬称略）

大西 敏夫	和歌山大学経済学部教授
足立 基浩	和歌山大学経済学部教授
吉村 典久	和歌山大学経済学部教授
橋本 卓爾	和歌山大学経済学部客員教授
上野 美咲	和歌山大学経済学部特任助教
藤本 幸久	和歌山社会経済研究所研究部長
影山 慎也	和歌山社会経済研究所主任研究員
中浴 正隆	和歌山商工会議所企業支援部企画・街づくり支援室室長補佐

②オブザーバー（敬称略）

永尾 吉賞	和歌山県企画部企画政策局調査統計課主任
中井 正	わかやま産業振興財団経営支援部和歌山国際経済サポートデスク
クパニ・ルンビディ	和歌山大学経済学部教授
田中 篤史	農林水産省近畿農政局経営・事業支援部事業戦略課課長補佐
野町 哲平	農林水産省近畿農政局経営・事業支援部事業戦略課輸出証明専門職
中平 匡俊	南海電気鉄道株式会社和歌山支社課長

塩路 眞英	和歌山社会経済研究所主任研究員
光定 伸晃	和歌山県農林水産部食品流通課輸出促進班主任
長畠 譲	株式会社南海エクスプレス常務取締役
松村 光一郎	和歌山市産業まちづくり局産業観光部産業政策課課長
近西 輝明	和歌山市産業まちづくり局産業観光部産業政策課産業振興推進専門員

③事務局

中浴 正隆	和歌山商工会議所企業支援部企画・街づくり支援室室長補佐
上野 美咲	和歌山大学経済学部特任助教

研究会の経緯

研究会の経緯は、以下のとおりである。

①第 1 回（2015 年 6 月 10 日、於：和歌山大学経済学部本館）

本研究会の趣旨、事前アンケート報告（各自）、方向性と発表順

②第 2 回（同年 7 月 29 日、於：和歌山大学経済学部本館）

- ・「和歌山県の農産物の海外輸出促進のためにどうすべきか」（中井正氏）
- ・「農林水産物・食品の輸出促進対策の概要」（田中篤史氏・野町哲平氏）
- ・「第 2 回アグリビジネス研究会」（藤本幸久氏）

③第 3 回（同年 9 月 29 日、於：和歌山大学経済学部本館）

- ・「和歌山県農業の特徴と課題－全国の動きを踏まえて－」（大西敏夫氏）
- ・「和歌山県産農産物の輸出戦略」「和歌山県産の柿における海外市場戦略」（藤本幸久氏）

④第 4 回（同年 10 月 28 日、於：和歌山大学経済学部本館）

- ・「和歌山県における輸出の取組」（光定伸晃氏）
- ・「生鮮品輸送についての概要」「クール EMS」と「Envirotainer」等」（長畠譲氏）
- ・「和歌山県産の桃における海外市場戦略」（藤本幸久氏）

⑤第 5 回（同年 12 月 18 日、於：和歌山大学経済学部本館）

- ・「ウメ加工品（主として梅酒・梅干し）の輸出について」（橋本卓爾氏）
- ・「和歌山県産の「温州みかん」における海外市場戦略」（藤本幸久氏）
- ・「マーケティング参考資料として～先行研究紹介（日本マーケティング学会報告資料）～」（上野美咲氏）

⑥第 6 回（2016 年 1 月 27 日、於：和歌山大学経済学部本館）

- ・「納豆の輸出に見る競争戦略」（吉村典久氏）
- ・「アグリビジネス研究会（1 月 27 日）影山発表レジュメ」（影山慎也氏）

⑦第 7 回（同年 2 月 19 日、於：和歌山大学経済学部本館）

報告書作成のための中間報告（各自報告）

⑧第 8 回（同年 3 月 18 日、於：和歌山大学経済学部本館）

報告書作成のための確認作業（各自確認）

報告書の構成（もくじ）

報告書の構成（もくじ）は、以下のとおりである。

はじめに

1.研究会の目的と経緯

2.わが国の農林水産物の輸出の現状（近畿圏内を中心とした取り組みについて）

- (1) 日本全体における動き
- (2) 農林水産物・食品の輸出額の推移
- (3) 政府による取り組み
- (4) 近畿圏内の現状
- (5) 輸出の取り組みへの補助事業による支援と東日本大震災に対する対策（近畿圏内）
- (6) 農林水産物におけるマーケティングの役割

3.和歌山県産農産物の現状

- (1) 和歌山県農業の特色と課題
 - ①和歌山県農業産出額の構成と位置
 - ②和歌山県における基幹農産物の全国シェア
 - ③果樹主産県の動向と和歌山県の特徴
 - ④果実の需給事情と果樹農業振興の基本方向
 - ⑤和歌山県農業の課題
- (2) 和歌山県産農産物の輸出の現状と課題
 - ①和歌山県の果実生産量及び農業産出額の状況
 - ②和歌山県産果実の輸出状況と課題
- (3) 輸出戦略と戦略品目
 - ①和歌山県産主要果実の輸出状況
 - ②東南アジア主要国の主要果実の輸入状況
 - ③海外市場戦略と輸出適性条件
 - ④輸出に対する考え方

4.輸出における課題

- (1) 検疫制度等の国際ルール
 - ①検疫
 - ②コーデックス委員会
 - ③WTO・SPS 協定
 - ④国内法
- (2) 食品の安全を担保する認証制度
 - ①HACCP
 - ②ハラール認証
 - ③有機農産物等の輸出入における相互認証
- (3) 輸出コストの低減と物流の効率化

- ①農産物の輸出における商流
- ②航空輸出における物流とリードタイム
- ③輸出スケジュールと輸出コスト
- ④物流の効率化

5.輸出促進対策

- (1) 国別・品目別輸出目標の設定とアクションプランの具体化
- (2) 輸出推進のオールジャパン体制の確立
- (3) ジャパンブランドの構築とブラッシュアップ
- (4) 輸出向け生産体制の構築～輸出対応型産地の形成～
- (5) 産地間連携の推進
- (6) 産地のマーケティング・マネジメント
- (7) 農産物の生産と製造・加工、流通等をつなぐフードバリューチェーンの構築
- (8) 日本食・料理への関心・好感度の高まりを活かす対策の一本化
- (9) 輸出事業者等に対するサポート体制の集約と拡充・強化

6.事例研究とデータ分析

- (1) 優良事例「納豆の輸出に見る競争戦略－茨城・「豆乃香」プロジェクト」
 - ①はじめに
 - ②納豆産業の略史と現状
 - ③市場投入に向けて～「『糸を引かせることが使命だ』とっていた我々・・・」
 - ④市場拡大に向けて
 - ⑤むすびに変えて
- (2) 為替等のボラティリティ及び戦略品目価格
 - ①為替のボラティリティについて
 - ②マイナス金利政策の影響について
 - ③和歌山県の果実価格の変動性について（標準偏差÷平均価格）過去 10 年間
- (3) パネルデータ分析による諸政策と輸出市場の関係性

資料編

- (1)和歌山商工会議所農商工連携への取り組み
～地産イチジクと新ショウガで全国展開～
- (2)報告関連資料
 - ①生鮮品輸送について（長嶋譲氏）
 - ②和歌山県における輸出の取組（光定伸晃氏）
 - ③ウメ加工品（主として梅酒・梅干し）の輸出について（橋本卓爾氏）

おわりに